



先日、保育園の門から玄関までの間にわさわさと生えた雑草抜きをしていました。ふと見てみると、植栽よりも頭一つ伸びた雑草が。「よし、やってやるか」と腰を据え、気合を入れ、力を込め、「エイヤ！」と引き抜くと、拍子抜けするくらい簡単に抜けてしまいました。あまりに簡単に抜けたので、こんなに目立つところに生えていたのに、今まで気付かなくてゴメンという気持ちになりました。

子どもの中には気づいてもらおうと、あえて大人が困るような行動を取る子がいます。その子にとって、注意を受けている内容は構わないようで、叱られている間は自分だけを見てもらえる絶好の機会として捉えています。その機会を求めて、大人にとつての、困った行動をとります。果たして、その子は「困った子」なのでしょうか。

その子も「困っている子」なのかもしれないよ、と私も学んだことがあります。

目立つ子どもの行動と目立つ雑草、ある意味、その環境で生きていくためという点では似ているのかもしれない。子どもたちには、「目立つ行動をしながらも大丈夫」「ちゃんと見てよ」とメッセージが届くようにすることが大切なのではないかと思わされます。気づくことで、この間の雑草のように、気になる姿がすんなりと抜けてくれることがあるかもしれません。

園長 梶原 秀一

今月の予定

牛久市幼児教育指導員の先生方による「おはなし会」
7/1 (金) PM
今月も4,5歳児を対象に読み聞かせをしていただきます。動画やテレビにはない、読み聞かせの良さ、そして語りの良さを存分に感じている子どもたちです。

カレーライスの日
7/6 (水)
調理の音や匂い、食べたときの美味しさ、五感で感じる事ができる大切な活動です。今月は園の畑で育てたじゃがいもを入れる予定です。みんなで力を合わせて美味しく作るぞ～!

笹焼き
7/8 (金) PM
園内に飾った短冊や笹飾りを見て理事先生も喜んでくれました。この日はみんなの願いを焼いて、煙にして天まで届けます。5日(火)は七夕の集合写真撮影もありますのでお忘れなく!

交通安全教室
7/8 (金)
今回より、2歳児からの参加になります。「信号の見かた、渡り方」について教えていただきます。ご家庭でも話題にしてみてくださいね。

お泊り保育
7/15 (金) ~ 16 (土)
年長児が仲間と一緒に力と勇気を合わせて保育園にお泊りします! 年下の学年もこの日の様子に興味津々です。年長児のご家庭には、後日詳細をお知らせします。

おべんとうデー
7/20 (水)
毎月、お弁当へのご協力をありがとうございます。お弁当を目の前にした子どもたちの嬉しそうな笑顔、とっても輝いていますよ!

リトミック
7/25 (月)
中島先生にお越しいただき、リズムやピアノの音に合わせて身体を動かします。日頃の活動を見ていただき、職員にも子どもたちにも良い刺激になっています。

誕生会
7/28 (木)
その子にとって年に一度の大切な日! お友だちからお祝いをしてもらうのはかけがえのない体験です。お祝いする気持ちも育てている子どもたちです。

お知らせ・お願い

★駐車場で手をつないでいますか?
車に乗っていると死角になり、子どもの姿が見えないことがあります。事故を未然に防ぐためにも、保育園の駐車場では必ず保護者の方が手をつないで、子どもの咄嗟の行動を止めたり、車の死角に入らないようにしてください。まだ子どもだけで行動している姿が見られています。何かあってからでは遅いのです。

★夏祭りについて
8月27日(土)に予定しています。現在、夏祭り実行委員の保護者の皆様が色々アイデアを出し合っており、子どもたちのために考えてくださっています。詳しくはまた後日のお知らせをお待ちください。

★お盆の期間中の保育について
お盆の期間にあたる、8月13日(土)、15日(月)は希望保育とさせていただきます。後日、別途手紙を配布しますのでご確認をお願いいたします。

★虫除けシールや虫よけリングの袋をお子さんのかばんの中に入れてままにすることは、トラブルの原因になりますのでご遠慮ください。 子どもたちが自分で袋から出してしまったり、落ちたものを赤ちゃんや口に入れてしまうなどの影響が考えられます。使用した後は、必ず保護者の方が袋を持ち帰っていただきますようお願いいたします。

★廊下は走らないよね…?
子どもたちに「廊下は走っていいの?」と聞くと「おともだちにぶつかるからダメ」と教えてくれます。ただ、お迎えの時間は保護者の方と会って嬉しのか、走っている子が多いように感じています。お家の方も一緒にせっかく子どもたちが理解しているルールを守れるような声掛けをお願いします。

★履物は揃えましょうね!
園内のトイレにはスリッパが設置されています。子どもたちは上手に履いてトイレに行っていますが、終わったあとにはあっちこっちに飛び散っていることも。「スリッパはなかよしがいいよね」と子どもたちに伝えているので、是非ご家庭でも履物を揃えることを伝えてもらえると、より、効果が高まるかと思えます。

子どもたちに 希望を語るう

小中学校の教育目標は、「生きる力」を育てることです。「生きる力」とは、自ら課題を見つけ、自らが考え、決断し、そして、実行することだと言います。しかし、それだけでは足りません。実行し、「自ら責任を負う」ところまでいかなければならないと思います。責任を負うとは、行なった結果について自らだけでなく、社会に対しても責任を負うことです。自分の周りの人に対しても、誠実であることです。

しかし、前途の内容が「生きる力」と言えるでしょうか。「生きる力」とは、夢や希望をどれだけ持っているか、違ってくると思います。ナチスの収容所で生き残った人々は、体力がある人ではなく、生きる「希望」を持っていた人だそうです。人は、先が見えない時、夢や希望を失ったときに絶望します。どんなに苦しくとも、一筋の光さえあれば、そこに向かって前進します。ナチスの絶望的な弾圧の中でさえ、ルイ・アラゴンが叫びました。「教えろとは希望を語ることを、学ぶとは誠実を胸に刻むこと」と。

私たちは、子どもたちに希望を語ってきたでしょうか。「希望」を語ることは、人生は楽しい、人といふことは楽しい、心浸み込ませることです。楽しい体験と楽しい出逢い、たくさん持っている経験が子どもたちに与えることです。楽しい体験とは、「自己充実」することです。「自己充実」は目的もなく、ただ遊んでいるだけの時にはありません。自己課題に挑戦し、失敗を乗り越えたときに実現します。小中学校では、授業がわかり、学校がおもしろいときに、保育園では、保育の自身が充実し、園生活が楽しいときに実現します。

日本軍に蹂躪された絶望的な祖国を思いながら「絶望の虚妄なることは希望に同じ」と魯迅は言っています。今、希望を失いかけていく日本と世界に問いかけているような気がしています。圧倒的な武力と暴虐の中でもウクライナやミャンマーの民衆は屈していません。どん底の今こそ、「希望」のときです。そして、子どもたちは未来です。希望そのものです。この子から、希望、夢を奪うようなことを許してはなりません。

理事長 浅田 精利